

事業の概要

少子高齢化が進み、地域社会が大きく変化し続ける中であって、今年度は、特に新型コロナウイルス（以下、コロナという。）感染拡大の影響を受け、共同募金運動を取り巻く環境は一層厳しさを増した。

このような状況のもと、本会では、コロナ感染拡大防止を最優先に、市区町村支会の役職員を対象とする会議・研修会等を全て中止とする一方で、各支会の状況や意向等の把握に努めるとともに、関係機関・団体等と連携してコロナ禍での対策や対応等について、情報等の共有化を図った。

広報啓発活動については、例年同様、福岡ソフトバンクホークス及び赤い羽根応援大使である周東佑京選手と甲斐野央選手の協力のもと作成している独自ポスター・チラシの配布、ホームページや広報誌の活用、イベント時のマスコミへの取材依頼、児童・生徒に対する福祉教育の一環として取り組んでいる赤い羽根キャッチフレーズ募集など、積極的に取り組んだ。

一方、各支会においても、役職員が一体となってコロナ禍での対応等に創意工夫を図り、可能な限り募金ボランティアの協力を得ながら、募金実績確保に向け様々な取組を行った。

しかしながら、平成11年度の10億7千万円余をピークに、年々減少しながらも、この10年間は7億円台を確保してきた本県の募金実績は、7億円を下回るという厳しい結果となった。

このため、受配団体が令和2年度の配分金事業をコロナ禍のため実施できず、余剰となった残金については、令和2年度に本会へ返還してもらい、令和3年度事業財源として再配分することとした。

この財源を含め県民の皆様から寄せられた一般募金及び歳末たすけあい募金については、社会福祉法第115条に基づく配分委員会で申請施設・団体の調査（コロナ禍のため事務局が実施）及び審査を実施の上、公正かつ有効に配分を執り行った。

また、令和2年7月福岡豪雨災害に際しては、大牟田市及び久留米市に設置された災害ボランティアセンター運営費として災害等準備金の一部を拠出し、被災地の復興支援に取り組んだ。

さらに、今年度は、中央共同募金会及び他の都道府県共同募金会と協働して、「新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」を実施し、コロナ禍での福祉課題解決に取り組む県内の団体等を支援した。

本年度の具体的な取組は、次のとおりである。

1 法人の運営

(1) 評議員会の開催（2回）

第212回評議員会 （定時評議員会）	令和2年6月24日	（決議の省略）
第213回評議員会	令和3年3月26日	（決議の省略）

(2) 理事会の開催（4回）

第347回理事会	令和2年6月9日	（決議の省略）
第348回理事会	令和2年10月7日	（決議の省略）
第349回理事会	令和3年3月15日	（決議の省略）
第350回理事会	令和3年3月18日	（決議の省略）

(3) 監事会の開催（1回）

監事会	令和2年5月25日	春日市
-----	-----------	-----

(4) 評議員選任・解任委員会の開催（2回）

評議員選任・解任委員会	令和2年6月16日	（決議の省略）
評議員選任・解任委員会	令和3年3月17日	（決議の省略）

2 市区町村支会の支援

(1) 会議等の開催

ア 新任者研修会	コロナ感染拡大防止のため中止
イ 担当職員研修会	コロナ感染拡大防止のため中止
ウ 支会会長・事務局長会議	コロナ感染拡大防止のため中止

(2) 個別支援の実施

市区町村支会への本会職員による個別訪問（11市区町）

3 広報活動の強化

(1) 赤い羽根データベースシステム「はねっと」による情報公開の推進

中央共同募金会ホームページ上に開設されているデータベースシステムを活用し、配分用途等の情報を公開した。

(2) 福岡県共同募金会ホームページによる情報公開の推進

本会ホームページにおいて、共同募金運動等の情報を公開した。

(3) 赤い羽根応援大使等による広報啓発

福岡ソフトバンクホークスの全面的な協力のもと、周東 佑京選手、甲斐野 央選手に赤い羽根応援大使（以下、応援大使）に就任いただき、ポスター・チラシ・パンフレットへの写真掲載等、共同募金運動のPRに協力いただいた。

また、共同募金運動啓発のため、応援大使の出席のもと、本年度の新たなポスター等の一般公開及び募金推進キャッチフレーズの記者発表会を実施した。

ア 記者発表会

期 日 令和2年 8月25日

場 所 福岡ペイペイドーム内 プレスカンファレンスルーム

さらに、平成25年度から採用している球団マスコット（ハリーホーク）と赤い羽根がコラボレーションしたバッジを本年度も作製し、広報活動を強化した。

(4) 広報活動の推進

ア 広報啓発資材の活用

(ア) 全戸配布チラシの作成・配布

前年度の募金配分結果及び今年度の募金への協力依頼を掲載。

887, 200部

なお、61ヶ所の支会では、本チラシの裏面を活用し、地元の情報を織り込んだ市区町村独自チラシを作成した。

(イ) 街頭募金用チラシの作成・配布

20, 200部（16支会）

(ウ) 共同募金パンフレットの作成・配布

20, 200部（46支会）

(エ) 共同募金リーフレットの作成・配布

13, 500部（24支会）

(オ) 共同募金ボランティアハンドブックの作成・配布

26, 400部（49支会）

(カ) 募金運動啓発ポスターの作成・掲示

県内の学校、社会福祉施設、社会福祉協議会、銀行等に掲示。

17, 080枚

イ 封筒の裏面活用

本会封筒の裏面を活用し、配分用途等の情報を広く周知した。

13, 500部

ウ 福岡県社会福祉協議会広報誌への広報依頼

県社協広報誌「ふくおかのふくし」（20, 000部発行、3, 986カ所に年3回配布）

に共同募金の取組に関する記事の掲載を依頼し、県民の方々へ理解と協力を求めた。

エ マスコミによる広報推進

共同募金運動に係る各種イベント開催や新規取組など、資料提供や取材依頼を行うことにより、新聞・テレビ・ラジオ等の協力による広報活動を展開した。

(5) 福祉教育の推進

共同募金運動や社会福祉全般についての県民の理解促進や福祉教育の一環として、福岡県、北九州市、福岡市の各教育委員会の後援のもと、児童・生徒に対し、募金運動推進キャッチフレーズを公募した。

共同募金推進委員会による選考を経て、最優秀作を本年度の運動推進のキャッチフレーズとして活用した。

ア 募集期間

令和2年4月22日から 令和2年6月10日まで

イ 応募総数

2,493点(小学校7校・中学校2校・高校5校の計14校)

ウ 入選作品及び特別賞

(ア) 最優秀作 「地域の輪 つなぐ広げる 赤い羽根・・・赤い羽根共同募金」

津田 悠希さん(糸島市立前原中学校3年・糸島市)

(イ) 優秀作 10作品

(ウ) 特別賞 11校

エ 表彰

最優秀作受賞者に対して、福岡県社会福祉功労者表彰式において表彰を行った。

また、優秀作受賞者及び特別賞受賞校は、該当支会代表者とともに各学校を訪問し、表彰状の授与を行った。

4 募金推進への取組

(1) 共同募金推進委員会の開催

第1回 令和2年 7月 7日 (書面審議)

第2回 令和3年 3月 4日 (書面審議)

(2) 市区町村支会モデル指定事業の実施

共同募金運動の啓発や実績向上を図るため、福岡市・うきは市・大任町・上毛町の4支会をモデル指定し、地域の実情を踏まえ、関係機関・団体等との協働による新たな取組を行った。

- ・福岡市 募金グッズの作成等
- ・うきは市 オリジナルキャラクターの作成、子育て世代への広報等
- ・大任町 広報活動の強化等
- ・上毛町 寄付つき商品開発による広報啓発、福祉教育等

(3) 赤い羽根自販機の設置促進

売上の一部等が募金される自動販売機「赤い羽根自販機」の設置を促進し、本年度は17市町に37台の赤い羽根自販機が新たに設置された。

※赤い羽根自販機設置状況 51市町 417台（令和3年3月31日現在）

(4) 募金百貨店プロジェクトの普及・啓発

売上の一部が募金される寄付つき商品「募金百貨店プロジェクト」の普及・啓発に努め、各支会・企業等と共同して開発等を行った結果、本年度は新たに5社の寄付つき商品が誕生した。

※協力企業・事業所数 17市町 124社（令和3年3月31日現在）

5 募金実績及び募金活動の取組

(1) 目標額及び実績額

ア 一般募金

目標額は、各支会の前年度（令和元年度）実績額とした。

(ア) 目標額 620,068,243円

(イ) 実績額 588,350,916円

イ 歳末たすけあい募金

目標額は、県及び市区町村社会福祉協議会の申請額をもとに募金計画を作成し、関係支会・機関一体となって運動を展開した。

(ア) 目標額 97,651,171円

(イ) 実績額 95,554,556円

a NHK歳末たすけあい募金（県域） 17,147,459円

協力企業・団体…NHK福岡放送局・NHK北九州放送局・福岡銀行・西日本シティ銀行・筑邦銀行・福岡中央銀行・北九州銀行・福岡県信用農業協同組合連合会・福岡県信用漁業協同組合連合会・西日本新聞民生事業団

b 地域歳末たすけあい募金 78,407,097円

※地域歳末たすけあい運動実施支会 32支会

ウ 地域課題解決型募金（テーマ型募金）

目標額は、参加団体の使途計画における申請額に事務経費等を加えた額とした。

(ア) 目標額 379,320円

(イ) 実績額 547,166円

エ 実績額合計 684,452,638円

※令和元年度募金実績 728,672,611円

オ 募金方法別実績

(単位 円)

募金方法	一般募金		歳末たすけあい募金		テーマ型募金	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
戸別募金	436,068,132	74.12%	72,617,209	76.00%		
街頭募金	2,411,748	0.41%	346,980	0.36%		
法人募金	68,250,238	11.60%	1,031,040	1.08%	333,500	60.95%
学校募金	4,103,201	0.70%	94,636	0.10%		
職域募金	14,785,706	2.51%	2,354,362	2.46%		
イベント募金	314,502	0.05%	31,800	0.03%		
バッジ募金	2,840,032	0.48%				
クオカード募金	13,411,530	2.28%				
図書カード募金	5,962,836	1.01%				
ボールペン募金	3,458,058	0.59%				
個人募金	16,851,200	2.86%	15,748,033	16.48%	57,000	10.42%
自販機募金	8,918,550	1.52%				
寄付つき商品	594,563	0.10%				
その他	10,380,620	1.77%	3,330,496	3.49%	156,616	28.63%
合計	588,350,916	100.00%	95,554,556	100.00%	547,166	100.00%

(2) 一般募金の取組

ア 街頭募金・啓発等

(ア) 本 会

a 初日街頭募金

西鉄福岡（天神）駅周辺で、初日街頭募金を行った。今年は、コロナ感染拡大防止のため、募金呼びかけの場所や1カ所あたりの参加人数を減らし、フィジカル・ディスタンスの確保に努めた。また、大声での呼びかけは行わずに音声データを活用し、マスク、手袋を着用したうえで例年よりも時間を短縮して実施した。（募金箱も距離を置いて設置）

併せて、当日は、にしてつグループの協力のもと、西鉄福岡（天神）駅をはじめ、西鉄電車主要各駅の駅員、西鉄グランドホテル・ソラリア西鉄ホテルの接客スタッフ、にしてつストア各店のスタッフの皆さんが各職場で「赤い羽根」を胸に着け、共同募金運動の開始をアピールしていただいた。

(イ) 支 会

県内の36支会で、延べ148回の街頭募金を行い、協力を呼びかけた。

イ 募金資材の活用

(ア) 着ぐるみ（愛ちゃんと希望くん）の貸出し

県内の4支会の催事に合わせ、延べ5回の着ぐるみ貸出しを行い、広報啓発に活用した。

(3) 歳末たすけあい募金の取組

経済的困窮や社会的孤立など生活に困難を抱えている方々に温かい年末年始を迎えていただくよう、恒例の歳末たすけあい募金を県下一斉に展開した。

ア 街頭募金・啓発等

(ア) 本 会

a 初日街頭募金

歳末たすけあい運動の開始を県民に周知することを目的に、初日街頭募金を行った。

今年は、コロナ感染拡大防止のため、募金呼びかけの場所や1カ所あたりの参加人数を減らし、フィジカル・ディスタンスの確保に努めた。また、フェイスシールド、マスク、手袋を着用したうえで例年よりも時間を短縮して実施した。(募金箱も距離を置いて設置)

(a) 期 日 令和2年12月 1日

(b) 場 所 西鉄福岡(天神)駅周辺(福岡市中央区)

b NHK歳末たすけあい開始

福岡・北九州放送局に募金受付の窓口を設置して協力を呼びかけた。

(a) 募金受付窓口の設置

・NHK福岡放送局 令和2年12月 1日から25日まで

・NHK北九州放送局 令和2年12月 1日から25日まで

(イ) 支 会

県内の8支会において歳末たすけあい募金の街頭募金を行った。

(4) 地域課題解決型募金(テーマ型募金)の取組

「福岡県内(広域)における地域や社会課題解決に向けて取り組む事業」を対象事業とし、下記参加団体及び本会により、1月から3月にかけて募金活動を展開した。

ア 参加団体

(ア) 認定NPO法人チャイルドケアセンター

[テ ー マ]

生活に困り感のある世帯を置き去りにしない! フードレスキュー

イ 振込用紙付きチラシの作成・配布

ゆうちょ銀行振込用紙付きチラシを5,000枚作成し、団体の関係者や協力者等へ配布した。

6 適正かつ効果的な配分の実施

(1) 配分委員会の開催

第1回 令和2年 6月 2日 (書面審議)

第2回 令和3年 2月17日 (書面審議)

第3回 令和3年 3月 4日 (書面審議)

(2) 配分調査

コロナ感染拡大防止の観点から、配分委員によるA枠施設に対する訪問調査を取りやめ、事務局が書面及び電話による調査を行った。

また、A枠団体も同様に配分委員による調査を取りやめ、事務局職員がクローバープラザ入居団体には面談による調査を行い、その他の団体に対しては、書面及び電話（又はメール）等による調査を行った。

書面及び電話等による調査 16件 面談による調査 7件

(3) 配 分

配分委員会における厳正な審査の結果として、令和3年3月4日、申請のあった社会福祉施設・団体・社会福祉協議会等への本年度の配分を次のとおり決定した。

なお、B枠及び地域歳末たすけあい募金については、支会の配分計画に基づき配分し、NHK歳末たすけあい募金については、歳末事業費、活動支援金、見舞金等として配分した。

ア 一般募金

(ア) A枠（県域の施設・団体）配分

- ・配分件数 23件
- ・配分総額 30,325,000円

(イ) B枠（地域）配分

- ・配分件数 74件
- ・配分総額 472,363,400円

イ 歳末たすけあい募金

(ア) NHK歳末たすけあい募金配分（県域）

- ・配分件数 352件
- ・配分総額 8,502,000円

(イ) 地域歳末たすけあい募金配分

a 地域福祉・在宅福祉サービス事業

- ・配分件数 3,914件
- ・配分総額 66,564,975円

b 見舞金贈呈事業

- ・配分件数 3,354件
- ・配分総額 11,789,708円

令和2年度共同募金配分総括表

(単位 円)

配分枠		配分額
一般募金	A 枠	30,325,000
	B 枠	472,363,400
歳末たすけあい募金		86,856,683
合 計		589,545,083

※令和元年度地域課題解決型募金（テーマ型募金）配分
配分額 735,988円（令和2年6月2日配分決定）

（４）公 告

社会福祉法第120条（結果の公告）に基づき、令和元年度（令和2年度事業）募金実績、配分内容等を掲載した機関誌「赤い羽根共同募金」を4,300部作成し、関係機関・団体に配布した。

また、本会ホームページに機関誌「赤い羽根共同募金」を掲載し、公開した。

7 福岡県社会福祉協議会（以下、県社協）との連携強化 県社協との共催による福岡県社会福祉功労者表彰式の開催

福岡県社会福祉功労者表彰式 令和2年10月28日 春日市 149名

8 顕彰の実施

（１）福岡県共同募金会会長表彰・感謝

ア 顕彰選考委員会の開催

令和2年 8月 6日 春日市

イ 福岡県社会福祉大会において次のとおり顕彰を行った。

- | | |
|---------------|----------|
| （ア）会長表彰 | 20名 |
| （イ）優秀地区（支会）表彰 | 8支会 |
| （ウ）会長感謝 | 53名・15団体 |

ウ 篤志寄付者に対する感謝を次のとおり行った。

- | | |
|---------|-----------|
| （ア）会長感謝 | 16名・109団体 |
|---------|-----------|

（２）中央共同募金会会長表彰・感謝

ア 中央共同募金会顕彰規程に基づく奉仕功労者表彰、従事功労者表彰及び篤志寄付者への感謝の推薦を行い、次のとおり決定した。

- | | |
|--------------|--------|
| （ア）会長表彰 | 5名 |
| （イ）会長感謝（感謝楯） | 1名・5団体 |
| （ウ）会長感謝（感謝状） | 4名・7団体 |

（３）厚生労働大臣表彰・感謝

ア 厚生労働大臣表彰実施要領及び感謝状贈呈要綱に基づく共同募金運動奉仕者・奉仕団体表彰及び多額の寄付者への感謝の推薦を行い、次のとおり決定した。

- | | |
|---------|--------|
| （ア）大臣表彰 | 該当なし |
| （イ）感謝状 | 1名・1団体 |

9 災害復興に対する支援

(1) 災害等準備金の運用

災害等準備金は、社会福祉法の規定に基づく全国の申合せにより常に3年間分を積み立てており、令和2年度は、平成29年度から令和元年度の積立額を準備金とした。

ア 災害等準備金の取り崩し

3年間を経過した積立金については取り崩しを行い、令和2年度に再配分した。

令和2年度取崩額 6,644,838円(平成28年度積立分)

※令和元年度拠出額(15,500,000円)の残額

イ 災害等準備金の拠出

令和2年7月福岡県豪雨災害の被災地における災害ボランティアセンター支援のため、平成29年度積立額の一部を拠出した。

災害準備金拠出額 6,719,648円

ウ 災害等準備金の積立て

災害支援制度運営要綱に基づき、令和2年度募金総額の3%を災害等準備金として積み立てた。

(ア) 令和2年度積立額 20,533,553円

(イ) 災害等準備金 79,204,405円(令和3年3月31日現在)

(2) 災害義援金募集

ア 令和2年7月福岡県豪雨災害義援金の募集

募集期間 令和2年7月10日から令和3年3月31日まで

実績 114,142,569円

イ 他都道府県で募集が開始された災害義援金について、各市区町村支会並びに福岡県庁、福岡県社会福祉協議会に対し募集の協力依頼を行うとともに、本会ホームページに募集要項を掲載し、周知に努めた。

- ・ 平成28年熊本地震義援金

平成28年 4月15日から令和3年 3月31日まで

- ・ 平成30年7月豪雨岡山県災害義援金

平成30年 7月10日から令和3年 6月30日まで

- ・ 愛媛県豪雨災害義援金

平成30年 7月11日から令和3年 6月30日まで

- ・ 平成30年7月広島県豪雨災害義援金

平成30年 7月12日から令和3年 6月30日まで

- ・ 平成30年7月豪雨災害義援金(中央共募)

平成30年 7月10日から令和3年 6月30日まで

- ・ 令和元年8月佐賀県豪雨災害義援金

令和元年 9月 2日から令和2年 8月31日まで

- ・ 令和元年台風15号・台風19号・大雨
千葉県災害義援金
令和元年9月17日から令和2年6月30日まで
- ・ 令和元年台風第19号災害義援金（中央共募）
令和元年10月16日から令和3年3月31日まで
- ・ 令和元年台風第19号災害義援金（宮城県）
令和元年10月18日から令和3年3月31日まで
- ・ 令和元年台風第19号災害義援金（長野県）
令和元年10月16日から令和3年3月31日まで
- ・ 令和元年台風第19号災害義援金（福島県）
令和元年10月21日から令和3年3月31日まで
- ・ 熊本県南豪雨義援金
令和2年7月8日から令和4年3月31日まで
- ・ 令和2年7月豪雨災害義援金（中央共募）
令和2年7月13日から令和3年3月31日まで
- ・ 令和2年7月豪雨災害義援金（大分県）
令和2年7月13日から令和2年8月31日まで
- ・ 令和2年7月豪雨災害義援金（鹿児島県）
令和2年7月13日から令和2年12月28日まで
- ・ 令和2年7月豪雨災害義援金（岐阜県）
令和2年7月14日から令和2年9月30日まで
- ・ 令和2年7月豪雨災害義援金（佐賀県）
令和2年7月21日から令和2年12月28日まで
- ・ 令和2年7月豪雨災害義援金（島根県）
令和2年7月22日から令和2年9月30日まで
- ・ 令和2年7月豪雨災害義援金（長野県）
令和2年7月27日から令和2年9月30日まで
- ・ 令和2年7月山形県豪雨災害義援金
令和2年7月27日から令和2年12月28日まで
- ・ 令和3年2月福島県沖地震災害義援金
令和3年2月24日から令和3年5月31日まで

10 受配者指定寄付金の普及と活用促進

中央共同募金会の審査結果に基づき決定した寄付金を受け入れ、指定された事業に配分した。

ア 寄付額	4件	357,027,017円
イ 配分額	4件	352,648,790円

11 「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援 全国キャンペーン」の実施

新型コロナウイルスの感染拡大により、緊急事態宣言が発出される中、その影響を受け子どもと家族をめぐる生活課題をはじめ様々な福祉課題が、長期化、深刻化していくことが強く憂慮される事態となったことを受け、本会では、中央共同募金会及び全国の共同募金会とともに、「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援 全国キャンペーン」を協働実施し、地域の子どもたちとその家族に対する活動や高齢者、障害者等、その他支援を必要としている人に対する活動団体へ助成を行った。

- ・件数 20件
- ・助成額 8,172,390円

12 公益補助事業等への協力

(1) 令和2年度中央競馬馬主社会福祉財団助成事業

本会が推薦を行った施設整備費助成事業について、下記のとおり決定された。

- ・件数 2件
- ・助成額 3,340,000円

(2) 令和2年度車両競技公益資金記念財団助成事業

本会が推薦を行った助成事業について、下記のとおり決定された。

ア 高齢者、障害者の支援を目的とするボランティア活動に対する助成事業

- ・件数 8件
- ・助成額 5,225,000円

(3) 「24時間テレビ」福祉車両贈呈事業

日本テレビやFBS福岡放送をはじめ、チャリティー加盟各社（全国31の放送事業者）が行う「24時間テレビ 福祉車両寄贈事業」について、市町村社協を通じ各施設・団体・個人への周知等に協力した。